



国立科学博物館附属 自然教育園

平成29年度 学習支援活動

「やさしい生態学講座」(全6講座)

対 象：一般、大学生
定 員：1講座につき40人
日 時：平成30年2月14日(水)～2月18日(日)、2月20日(火)
 いずれも 14:00～16:00
会 場：国立科学博物館附属 自然教育園 第一講義室（東京都港区白金台5-21-5）
参 加 費：無 料（入園料のみ）
入 園 料：一般・大学生310円 ※高校生以下、65才以上の方は無料(要証明書)
申 込 方 法：平成30年1月11日(木)から電話にて受付開始
 9:00～16:30まで(毎週月曜日と祝日の翌日は休園)
電 話：03-3441-7176 自然教育園 にて次の①から⑥をお伝え下さい。
 ①希望講座 ②居住地市区町村 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥職業・学年等

1. 2月14日(水) 「都市の森の自然と歴史」

小池 文人（横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授）

都市の中で生物は分断された生育地で生活しています。分断林は大きな森の切れ端ではなく特有のメカニズムが動いています。このような都市の森で起きることや、都市の歴史が生物相に与える影響についてお話しします。

2. 2月15日(木) 「湿地の保全と利活用」

西廣 淳（東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授）

湿地の生物多様性の維持には、洪水や人間活動による攪乱が重要な役割をもちます。湿地の生物の攪乱への適応について説明するとともに、現代社会において湿地の利活用と保全を両立させる方法を実践的に考えます。（※平成26年度の内容に新たな話題を加えてお話しします）

3. 2月16日(金) 「雌雄同体という生き方」

中嶋 康裕（日本大学 経済学部 教授）

雄でもあり、雌でもある。そんな雌雄同体の動物はなんだか奇妙に感じます。けれども、たいていの植物は雄しべと雌しべを持つ雌雄同体で、奇妙なことなど何もありません。はたして雌雄同体の動物は幸せに暮らしているのでしょうか？

4. 2月17日(土) 「アリの社会生態～普通にいる変なアリから侵略的外来種まで」

佐藤 俊幸（東京農工大学大学院農学研究院 准教授）

アリなどの社会性昆虫は熱帯から温帯にかけ大繁栄しています。普通に生息するアリの生態も驚くほど多様で、ヒアリやアルゼンチンアリのように侵略的外来種化する場合があります。アリ類の多様な社会生態について解説します。

5. 2月18日(日) 「きのこの自然誌」

吹春 俊光（千葉県立中央博物館 植物学研究科長）

森はきのこ無しでは生きていけないといわれています。今回は、そんなきのこの暮らしぶりについて、また動物の糞上、動物の死体分解跡、モグラ類の便所から発生するなど、ちょっとヘンテコなきのこについて紹介します。

6. 2月20日(火) 「鳥のレッドリストから見る日本の自然」

金井 裕（日本野鳥の会 参与）

「どんな生き物が絶滅に瀕しているのか」というのは、「生き物たちが暮らす自然環境がどんな状態にあるのか」ということでもあります。環境省の鳥類のレッドリストから日本の自然と生物の保全について考えます。

【交通】

JR山手線目黒駅、東急目黒線目黒駅から徒歩約9分
 東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅から徒歩約7分

